

第7回漢字小委員会での検討事項について

論点1 国語施策としての漢字表の必要性の有無

1 必要であるのかないのか。必要であるとすれば、その理由は何か

- ①漢字表があることの<プラス面・マイナス面>、また国語施策としての意義
 ②「表外漢字字体表」(前文1-(3))における「常用漢字表」に関する認識

漢字表の必要性⇔マイナス面：交ぜ書き、漢字使用の制限的側面(←表の性格)
 ⇒国民の言語生活の円滑化、読み書き能力の目標(学校教育との密接な関係)
 ⇒共通した「ものさし」としての役割(小説、正書法、専門用語等との関係)
 ⇒表現(単語あるいはもう少し長い言語単位)の平易化への寄与
 ⇒日本語の中で漢字の担っている役割を明確化する

⇒表外漢字字体表に示された認識(基本的に今期も継承?)

ワープロ等に搭載されているJIS漢字は、第1水準、第2水準合わせて6355字あり、常用漢字表に掲げる1945字の3倍強となっている。ワープロ等の普及によって、これら多数の漢字が簡単に打ち出せるようになった現在、常用漢字表の存在意義がなくなったのではないかという見方もある。

しかし、このことは一般の社会生活における漢字使用の目安を定めている常用漢字表の意義を損なうものではない。むしろ、簡単に漢字が打ち出されることによって漢字の多用化傾向が強まる中では、「一般の社会生活で用いる場合の、効率的で共通性の高い漢字を取め、分かりやすく通じやすい文章を書き表すための漢字使用の目安(「常用漢字表」答申前文)」となる常用漢字表の意義は、かえって高まっていると考えるべきである。

2 必要性があるとした場合、常用漢字表の改定が必要かどうか

- ①言語内の変化に基づくもの(「常用漢字表」制定(1981)から既に25年経過)
 ②言語外の変化に基づくもの(情報機器の急速な普及による書記環境の劇的変化)
 ③新聞・放送各社における漢字使用の変化(使用漢字の増大と各社のばらつき)

常用漢字表改定の必要性⇔理由1~5と、上記①~③との関係を整理する

- ⇒理由1：文字言語を読み取ることの重要性が一層増大している？
 2：文字による正確で円滑な伝達を目的とした施策が必要？
 3：日本語の表記システム(漢字仮名交じり文)に由来？(←？手書きと情報機器に共通した効率的な漢字仮名交じり文の在り方)
 4：情報化に伴う漢字処理の問題(人間、情報機器)？
 5：情報機器の普及がもたらしている国民の言語生活の変化？

3 上記1, 2と関連して、今後の「日本人と漢字との関係」をどう考えていくか

- 「総合的な漢字政策の在り方」の基本理念(漢字表の有無にかかわらず)の構築